

シリーズ

阿久比を歩く ②④

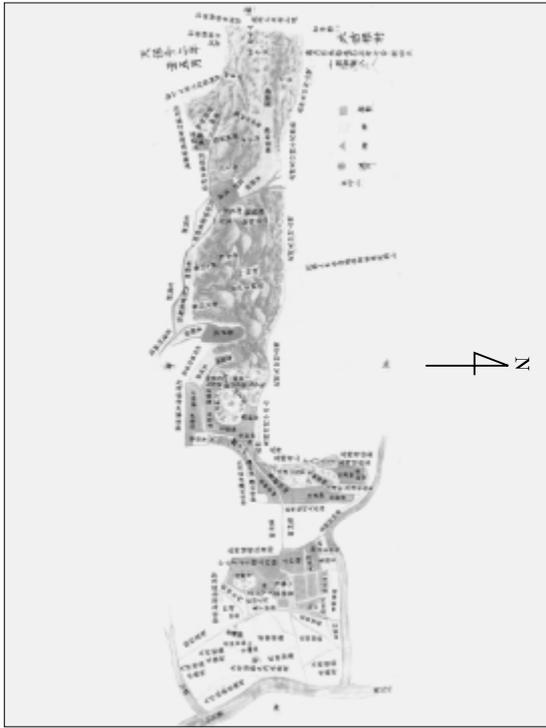


八幡神社の常舞台

今回は大古根村絵図を見ながらぶらり旅に出掛けた。

絵図を見ると、この村は東西に長く東の方は川に囲まれた形で田が広がり、その横に集落が見られるのでこの辺りを中心に歩くことにした。

まずは絵図にある蓮慶寺を目指す。きつい坂道を上りきった場所に寺は建つ。沿道から見える畑に、菜の花が色鮮やかに咲く。民家の花壇にはスイセンの花がちょうど見ごろを迎



大古根村絵図(阿久比町誌資料編1村絵図解説書から)

え、順番を待つかのようにはチューリップの芽が顔をのぞかせている。春はもうそこまで来ている。(私もついに花粉を感じし、目の周りがとてもかゆい。確実に春到来。)

寺の境内をぐるりと周り、次に八幡社へ向かった。細い道を通り抜け神社に着く。

東側入口の看板で神社の由来を読む。「社伝によると菅原道真の孫、英比丸が英比郷を開くと、その四男菅原道清が、天曆五年(九五二)古新田村から八幡社を移して氏神とした」とある。

境内には立派な入母屋造の屋根で、東を正面にした常舞台(神楽殿)が建っている。神社拝殿前には狛犬が左右に置かれ、その後ろには道真の愛した梅がちらほらと咲き始めている。

絵図に地藏堂が現在の上ヶ畑辺り、薬師堂が八幡社の隣にあり、そこに入っていた「薬師如来立像」と「地藏菩薩」が、今は八幡神社から県道を挟んで南側の薬師堂に安置されて

いるらしいので行ってみることにする。

大古根地区で「おやくさん」と呼ばれる薬師堂の中で、おばあさんが二人こたつに入り、にこやかに会話をしていた。

声を掛けると外に出てきてくれた。「毎日ここに来て、おやくさんたちといっしょにいるのが日課ですよ」。

「歳も八十を超えました。元気で暮らせるのもここで遊ばせてもらっているおかげかな」と気さくに話しをしてくれた。

帰り際「これからも元気で長生きしてくださいね」と私たちが言うとう、「あなたたちも、お仕事がんばってくださいね」と激励された。おばあさんたちは、私たちの姿が見えなくなるまで手を振ってくれていた。(おもわず胸が熱くなった。)

あぐいぶらり旅

村絵図を歩く(大古根村)



おばあさんたちの憩いの場「おやくさん」